

カルシウム補給に！ メリット® とまぜて使えるカルシウム剤※

カルシウム葉面散布剤

カルタス®

特殊肥料：熊本県第H22-8号



包装：1kg・10kg

特長

- キレートカルシウムを**10%** (CaO) 配合しています。
- **メリット®** と希釈混用して使用できます。

※混用方法については、次ページ「メリットシリーズとの混用方法」をご参照ください。

メリット®



メリットは作物の生長にあわせて使い分けができる当社の葉面散布肥料です（ポリリン酸、微量要素配合）



カルシウム (Ca) の働きと欠乏の原因

Caの働き

- ①細胞を強くして作物を丈夫にする。
- ②抵抗力や耐塩性を高め、代謝を正常に保つ。
- ③日持ちを向上させる。

重要な
栄養素

Ca欠乏の原因

- ①根傷み(原因:乾燥、過湿、濃度障害)でCa吸収力が低下する。
- ②土壌中の苦土や加里等の拮抗作用により、根からのCa吸収が抑制される。



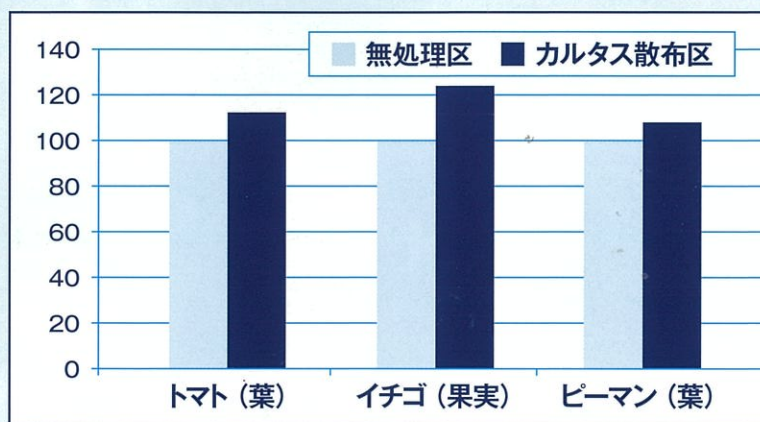
根からの吸収量が不足して、作物への供給が間に合わず欠乏状態になる。

カルタス (散布) の効果

各作物にカルタスを 300 倍で
3 回葉面散布しました。

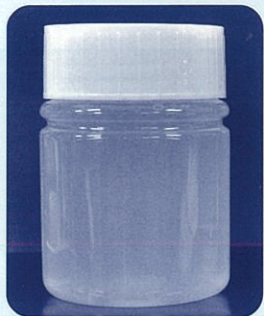
試験地：当社ハウス内

作物のカルシウム
含有量が
アップしました

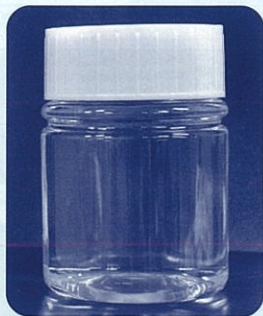


※グラフは指数で示しました。

カルタス® は メリット® と希釈混用できます。(原液どうしの混用は不可)



他社のカルシウム剤と
メリット® の希釈混用は
白濁沈殿します



カルタス® とメリット® の
希釈混用は
白濁沈殿しません

「カルタス®」によるカルシウム補給と
「メリット®」による生育コントロールが
同時にできるため **作業の省力化を**
図ることができます。

《メリットシリーズとの混用方法》

◆下記所定の倍率でご使用ください。

・メリット (青・黄・赤): 300~500 倍 カルタス: 300~1000 倍
※メリット M: 800~1000 倍 アミノメリットシリーズ: 500~800 倍

◆上記以外の使用方法については、弊社営業担当者または
弊社お客様相談窓口(0120-376-831)にご相談ください。

カルシウム補給のポイント

300 ~ 1000 倍程度にうすめて茎葉に散布してください。
 ※樹勢の弱い園または作物では、1000 倍にうすめて散布してください。

カルタス はいろいろな作物
 のカルシウム補給にご使用いた
 だけます

欠乏症状が発生する前に、予防として補給してください。

作物	カルシウム欠乏による症状	効果的なカルシウム補給のポイント		
		時期	散布回数	散布間隔
トマト	尻腐れ果 ・ 葉先枯れ	各段開花期	随時	7～10日おき
イチゴ	果実軟化 ・ チップバーン	育苗期		
		収穫中～収穫後半		
キュウリ	成り疲れ ・ 芯止まり ・ 落下傘葉	収穫開始～収穫中		
ナス、ピーマン パプリカ	尻腐れ果	育苗期	4回	10日おき
		生育期間中		
メロン	発酵果 ・ 日持ち低下	肥大初期、ネット発生期	3回以上	5～7日おき
スイカ	葉縁枯れ ・ うるみ果	着果後～肥大期	3回	7～10日おき
アスパラガス	茎割れ ・ 曲がり ・ 日持ち低下	夏芽収穫	随時	
ニラ、ネギ	新葉の生育不良 ・ 葉先枯れ	生育期間中	随時	
タマネギ	葉先枯れ ・ 日持ち低下			
葉菜類 結球類	芯腐れ ・ 縁腐れ ・ 日持ち低下	育苗期	3回以上	5～7日おき
	※ハクサイ、コマツナ、チンゲンサイへの混用方法 メリットは800倍にうすめてお使いください。	結球開始時	4回	10日おき
		収穫期	3回	5～7日おき
サツマイモ	貯蔵性低下	塊根形成期		
		塊根肥大期		
柑橘類	浮皮 ・ コハン症	果実肥大期	3回以上	
		収穫の30日前～	3回	
ナシ	蜜症 ・ ユズ肌 ・ 日持ち低下	落花後～幼果期	3回以上	
		収穫30日前～	3回	
モモ	日持ち低下	落花後～幼果期	3回以上	
		収穫30日前～	3回	
リンゴ	ビターピット ・ 日持ち低下	開花期～幼果期	3～5回	7～10日おき
		果実肥大期	3回	10日おき
		収穫1ヶ月前～		
ブドウ	日持ち低下 ※袋がけをしない場合は果実にか かからないように棚上から散布してください	果実肥大期	3回以上	5～7日おき
		着色開始～	3回	
オウトウ	裂果 ・ 日持ち低下	生育初期～		
エダマメ、ダイズ	黄化症	肥大期	2回以上	
スナッPEndウ、 インゲンマメ、ソラマメ	黄化症 ・ しみ症	着果後～収穫まで	随時	
花卉	茎の軟化 ・ 葉先枯れ 葉質低下 ・ 日持ち低下	生育期間中	3回以上	出荷前
		花芽形成期～花蕾生育期		
			出荷前	

カルタス®の効果事例

ニラ（福島県）

区制

- ①無処理区
②試験区…カルタス300倍と
メリット青300倍を混用
して葉面散布しました。

施用日：11月上旬、11月20日
(計2回)



無処理区



試験区

生産者
様の声

試験区は、葉の色が濃く、葉先が立ち、葉がかたくなりました。

キク（宮城県）

区制

- ①慣行区…アミノメリット青500倍を
葉面散布しました。
②試験区…カルタス1000倍と
アミノメリット青500倍を
混用して葉面散布しました。

施用日：10月下旬、11月上旬（計2回）

5株平均

	慣行区	試験区
草丈cm	106	106
重量g	61	67



慣行区



試験区



慣行区

試験区

生産者
様の声

試験区は、葉のボリューム
が増え、重量が10%アップ
しました。
また、光沢が出て、葉肉が
厚くなりました。

カンキツ（佐賀県）

区制

- ①無処理区
②試験区…カルタス500倍を
葉面散布しました。

施用日：6月1日 7月2日 8月1日
9月3日 10月1日 11月1日
(計6回)



無処理区



試験区

試験場
担当者の
声

- ①カルタスの施用で浮き皮が軽減しました。
②試験区は果実が締まっているように感じました。

カルタスの効果事例は
こちらでもご確認
いただけます!!



注 意

- ・石灰硫黄合剤と混合すると有毒ガスが発生する恐れがあり、危険です。混合は行わないこと。
- ・本液のpHは約1の酸性液体です。(水で300倍希釈時のpHは約3.0です)
- ・目に入らぬよう注意し、もし目に入った場合はすぐに水で十分に洗い流してください。
- ・皮膚に付着した場合は水で十分に洗い流してください。
- ・メリット（青・黄・赤）と混用の場合は、『メリット：300～500倍、カルタス：300～1000倍』に希釈してご使用ください。
- ・高温で日照の強い時など、不適と考えられる条件での散布は、避けてください。早朝もしくは夕刻の涼しい時に散布してください。(特に軟弱野菜は注意)
- ・高温で散布後の液剤が乾燥しにくい時や樹勢の弱い園では、濃度をうすめにするか散布をひかえてください。
- ・うすめた液はその日のうちに使い切ってください。
- ・直射日光を避け涼しい所に保管してください。
- ・沈殿物や結晶を生じることがありますので、よく振ってお使いください。
- ・詳しい使い方については、JAまたは農業技術指導機関にご相談ください。